

脳卒中と心臓病

日本人の死因のトップはがんである。2位が心臓病で3位が肺炎で4位が脳卒中である。

死亡者全体の30%はがんで亡くなっている。近年がんによる死亡者が増加しているが、がん以外の病気で死ぬ人が減った為、がんの死亡者が増えているとも言える。

生活習慣と直接かかわりを持つのが心臓病と脳卒中であるが、2位の心臓病と4位の脳卒中を合わせると国民の死因の1/4になる。

心臓と脳ではかけ離れた病気のように思われがちだが両者には密接な関係がある。両疾患ともに動脈硬化がベースであり生活習慣により予防が可能である。

脳卒中とは脳の血管疾患の総称で血管が詰まるタイプ(脳梗塞)と破れるタイプ(脳卒中)とがある。

脳梗塞の1/3は心臓でできた血栓が脳に詰まるとおこる病気である。心臓が起源で起こる不整脈(心房細動)が心臓に血流の渦巻き現象を生じその際にできる血栓が脳の動脈を閉塞することによる。

脳梗塞の治療は最近目覚ましい進歩を遂げており早期治療が功を奏す。

愛知淑徳大学健康医療科学部 教授
愛知淑徳大学健康相談室 室長
愛知淑徳大学クリニック糖尿病内科 医師

井口 昭久

